

あんようけん
安養軒

山梨県都南留郡忍野村内野



安養軒

安養軒は観光地で有名な忍野八海のある忍野村内野にある。建物自体は近年建立のものであるが、同村の天野一家の持仏堂として親鸞聖人の伝承を残している。聖人が相模国国府津より山中湖方面に向かい三国峠にさしかかった際、折しも日は暮れていたが、遙か西方に光を放つ場所を見つけ、その場所を訪ねたところが天野家だったという。

『安養軒阿弥陀堂縁起』によると、安養軒は天野四郎^{さぶらう}姐^{あね}球^{たま}碓^づという念仏に信仰の篤い者が、阿弥陀如来像を感得してお堂を建てたという。その末孫で



安養軒

ある天野次郎姐^{あね}球^{たま}碓^づの時、親鸞聖人が当家に逗留。その際に次郎夫婦は聖人に帰依し、聖人より夫妻共に「釈円智」と「釈尼妙智」と法名を賜わり、「十字名号」と「六字名号」を授かった。とくに「六字名号」には夫妻の肖像が描かれていたようである。

現在、天野家には蓮の繊維で織った布地の「阿弥陀如来像」、聖徳太子を始め、恵心僧都や法然上人、または真仏、源海、源誓といった聖人のお弟子が描かれた連座絵像「光明本」、「十字名号」の三幅が伝えられている。